ありば ヒューマンドキュメント

米盛章子さんと米盛大翔くん

[米盛（よねもり） 大翔（ひろと）くん] 鹿児島市

パソコンが魔法の道具箱

鹿児島市の武岡台養護学校小学部4年の米盛大翔（ひろと）くんが、パソコンを使って絵を描き始めたのは小学部1年のとき。母親の章子さんによれば、「絵が消えていくのが残念でファイルの保存のしかただけを教えたんです。そうしたら1、2か月の間にすごい数の絵が保存されていて。」最初のお気に入りの主題はペンギン。水族館や動物園が大好きな大翔くんの作品にはゾウやキリンなど、動物たちがにぎやかに遊んでいる。

絵を描くことで、自閉症の大翔くんは外の世界とのかかわりを広げていった。出掛けたことを絵の主題にするということだけでなく、絵が展示される場所に行くことで、人に見てもらう喜びも感じるようになっていった。

大翔くんの絵は、少しずつ変化している。最初は青ばかりだったが、色のバリエーションが豊かになった。最初は笑顔の絵だけだったが、違う表情も描くようになった。昨年末に、最初の作品集『ひろと　いっしょが　あったかいね』を出した。そのページをめくっていくと、そこには子どものきらめくような視線が凝縮されている。

大翔君のCG作品「おさんぽ」は、全国から24万点余りの応募があった住友生命主催の第32回こども絵画コンクールで、優秀作品100点（銀賞）に選ばれ、2009年3月から1か月間、フランス・パリのルーブル美術館で展示された。

子どもたちが暮らしやすい鹿児島にしたい

章子さんは、大翔くんの障害と向き合うことで、自分も変わったと感じるという。

「最初は、愚痴をこぼすようなこともあったのです。でも、養護学校で、わが子のために努力されてこられた保護者の方々や、子どもたちのために日々奮闘される先生方、通学バスで言葉掛けをされる地域の方々と接するようになって、わたしもいろいろなことに気づかされました。泣いて暮らすより笑って暮らすほうがいい。このような中で過ごす穏やかな安定した日々が大翔にたくさんの経験をさせ、人に何かが伝わる絵を描かせていただいているのだと思います。」

「大翔のような自閉症の子どもたちは、人の怒りやイライラにいたたまれなくなり、落ち着かなくなります。だから、私たちが優しく穏やかな気持ちで接することが大事です。子どもを注意するとき、声を荒らげると周りにいる子どもまで傷つけてしまうこともあるのです。叱るときも周りに配慮するなど、そうした気配りの大切さは大翔といることで気付かされました。ほかにも気付かせてくれることがたくさんあって、絵を描くからとかではなくて、この子が自分の子として生まれてよかったなと思います。」

章子さんの職場の上司が作ったブログ「大翔ギャラリー」で大翔くんの作品を見ることができる。
http://blogs.yahoo.co.jp/yonemorihiroto

大翔くんのCG集
「ひろと　いっしょが　あったかいね」
（2008年12月刊）64ページ。1部2500円。
お問い合わせは、慈愛会クリニック　米盛まで
FAX　099-226-5712

ARIBA tsushin

ありば通心

有限会社

千畳屋(せんじょうや)

「心と心がつながれば お互いに気持ちよく働ける」

障害者雇用体験事業とトライアル雇用

薩摩川内市の千畳屋は地域に根ざした家庭畳専門店。宮元宣臣さんで3代目になる。

「千畳屋という名前にして会社組織にしたのは昭和53年。先代が『名前は大きかほうが良かが』と付けた名前で、名前負けせんごと私も一所懸命しかたです。」

「人手が足りなかったものですから、よい人がいないか探していましたら、商工会議所の知り合いの方で障害者を雇われている方がいらして『すごく頑張ってくれるよ』と、鹿児島障害者職業能力開発校の担当者を紹介していただきました。昨年の6月です。」

開発校の方から、かごしま障害者就業・生活支援センターを紹介され、センターの登録者の中で千畳屋の希望に合うOさんを紹介された。Oさんは知的障害があるが、県外で働いた経験もある。実家のある薩摩川内市で暮らすようになって、かごしま障害者就業・生活支援センターに登録して仕事を探していた。

まず、就業・生活支援センターの「企業による障害者雇用体験事業」を利用して、試験的に2週間の雇用実習を行った。さらに事業主が障害者を短期の試行雇用の形で受け入れるハローワークの「トライアル雇用制度」を利用して3か月間雇用後、その働きぶりを見て、11月から正社員として採用した。

その採用までの経緯で、就業・生活支援センターの支援員が、補助金など制度の説明からOさんの家庭訪問まで、熱心にサポートしてくれて、とても助かったという。

畳の角綴じをするOさん

有限会社 千畳屋
〒895-0061
鹿児島県薩摩川内市御陵下町2-64
TEL 0996-22-4322
FAX 0996-22-5792
〈営業時間〉8:00～17:30
〈休業日〉日曜日

千畳屋の宮元宣臣さん。
千畳屋のキャッチフレーズは「愛畳・夢畳・友畳・心畳」。畳(じょう)と情(じょう)の語呂合わせ。畳のランク付けにも使われていて「愛畳」がいちばん高いそうだ。

職場との相性と適切なフォローで意欲を持って仕事に取り組む

雇用実習やトライアル雇用を利用してみて宮元社長が感心したことは、Oさんの勤勉さだ。

「休むことなく、毎日就業15分前に来られる。最初、その勤勉さに驚きました。彼にぴったりの仕事だったんじゃないですかね。」

「最初は『障害者』で大丈夫かなという気持ちもあったんですけれども、同じひとりの人間ですからね、最終的には心と心がつながれば全く違和感もない。もちろん仕事の面で注意すると、気にし続けるという面はあります。そこはきちんとフォローして、心から触れ合っていけば、すごく気持ちよく働いてくれます。」

現在、宮元社長とOさんの二人で畳づくりをしている。Oさんは、畳の縁をつけて、縁を曲げ、角を綴じ、縫いつけて、最後の仕上げをするという工程を担当している。その動きはとてもスムーズだ。

「畳の縁の角を綴じるのは難しい作業で、工程の中でも肝心なところなので、センスが無いとできない。これを覚えるのが早かったですね。1か月ぐらいで習得しました。ちゃんと上達していくから、育てがいがあります。」

Oさんのご両親の話では、以前と変わって、楽しく出掛けていって、すごく元気に帰ってくるようになったという。Oさんの仕事ぶりは、集中していて頼もしい。Oさんも「いろんな種類の畳があって楽しいです。この仕事が好きです。ここで働くようになって良かったです。」と語り、意欲を持って仕事に取り組んでいる。